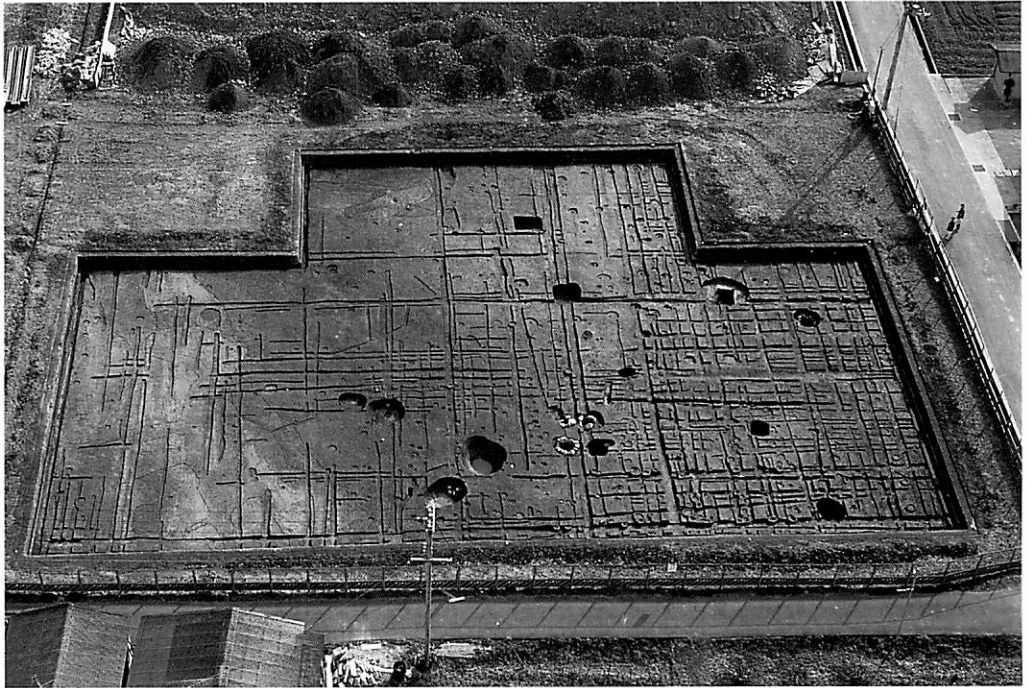


藤原宮と藤原京の調査

藤原宮西北官衙地区

周辺でのこれまでの調査同様、藤原宮期の遺構は希薄である。むしろ特徴的なのは平安時代末から鎌倉時代の遺構で、なかでも石組井戸の数の多さが目を引く。これらの井戸は、通常の生活用というより、何らかの生業用とみられる。北上空から。本文4頁参照（撮影／中村一郎）



藤原宮西面大垣

縄手池の護岸改修に伴って西面大垣の調査を行い、掘立柱穴列を確認した。柱穴の底には根固めの石や礎板が残っていた。調査区南端に西面南門がかかるが、既に削平を受け、痕跡を残していない。北から。本文10頁参照（撮影／井上直夫）



西一坊坊間路と右京八条一坊

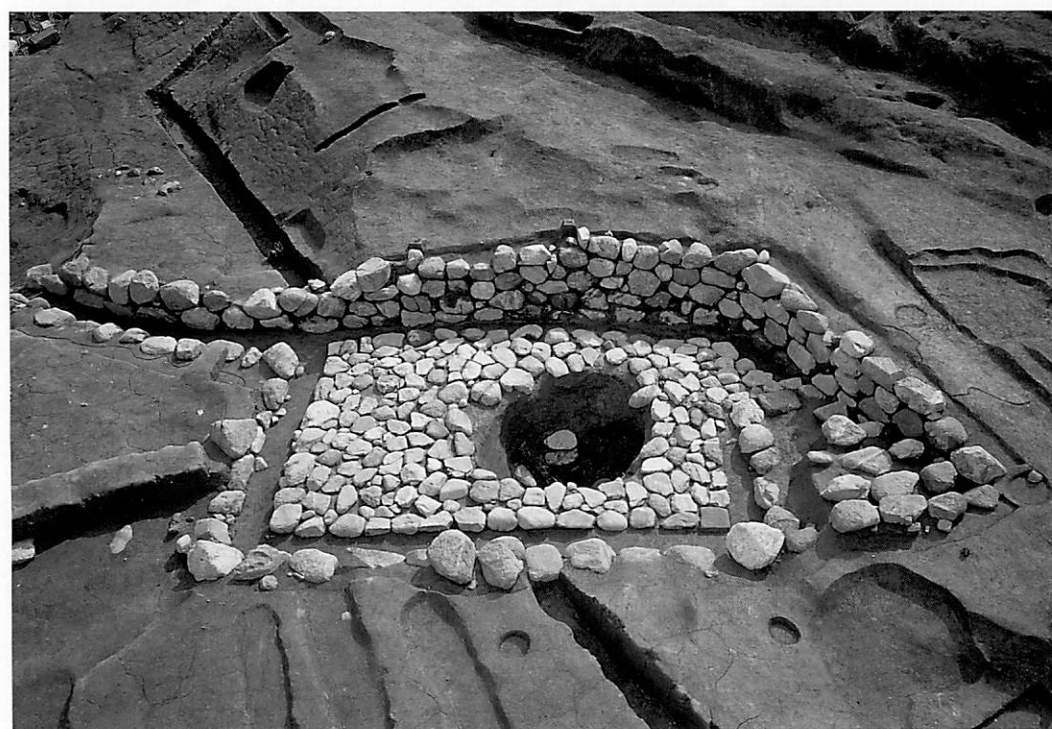
西一坊坊間路の東西両側溝を検出した。道路の西には、右京八条一坊西北坪の宅地が広がり、東辺と北辺の区画堀や建物がみつかった。背後に畝傍山がみえる。東から。本文14頁参照（撮影／井上直夫）

飛鳥池遺跡の調査



飛鳥池遺跡

第93次調査は、飛鳥池工房跡の中央部にあたる。調査区中央の3条の東西塀で、南北に分かれる構造が明かになった。塀の南側では、谷の中央には炭を主体とする工房廃棄物層が分厚く堆積し、両岸で工房が営まれていた。北上空から。本文33頁参照（撮影／中村一郎）



石敷井戸

3条の塀の西側には、石敷の井戸がある。北辺が長い台形で、石を積み上げて周壁をつくる。北西隅に階段が残る。井戸の周りに石を敷き並べ、周囲に溝を巡らせ、南東隅から排水していた。北から。本文33頁参照（撮影／井上直夫）



富本銭と鋳棹

わが国最古の铸造貨幣。いずれも鋳放し銭で、周囲に鋳バリや堰の切断痕が残る。鋳損じた破片が大半を占め、不良品として廃棄された。第84次調査で出土した鋳棹は堰の断面が一致し、成分も同一で、富本銭の鋳棹と判断した。本文33頁参照（撮影／井上直夫）



飛鳥池瓦窯

飛鳥池工房の一画に設けられた瓦窯。窖窯であるが、焼成部は削平され、燃焼部が残る。飛鳥寺東南禪院へ瓦を供給した。富本銭出土層の年代の決め手となった。西から。本文33頁参照（撮影／井上直夫）



飛鳥池遺跡出土の様(ためし)

木製の製品見本である。釘・工具・鋳・建築金物など、飛鳥池工房の多様な産品の一端を示す資料である。本文33頁（撮影／井上直夫）

飛鳥寺と吉備池廃寺の調査



飛鳥寺南面大垣と外周道路

飛鳥寺南面東半の大垣を検出した。掘立柱塼で、縁石を備えた基壇が伴う。大垣外は外周道路となり、南側の側溝まで幅約9.5m。一部に石敷きがあり、ここに門を開くのであろうか。南には前年度調査した下層の石列がみえる。東から。本文23頁参照（撮影／井上直夫）

吉備池廃寺の南面回廊

石組溝と石抜取跡がみえる素掘溝との間が南面回廊。削平が著しい。回廊は塔-金堂中軸線を越えて東に延び、ここには中門は開かない。後に素掘溝の下で足場穴を検出し、回廊未完成説は否定された。西から。本文65頁参照（撮影／井上直夫）

